

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071602470		
法人名	有限会社 Kふあみりい		
事業所名	グループホーム みどりのうた	ユニット名	1Fユニット
所在地	福岡県久留米市東櫛原町1647-6		
自己評価作成日	平成25年9月7日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成25年9月16日	評価結果確定日	平成25年12月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>自然に囲まれた豊かな施設環境の下、利用者一人ひとりが、「その人らしく」毎日を過ごせるようなサービス提供を心掛けています。スタッフとご家族が情報を常に共有し、利用者とそのご家族及び馴染みの関係(人、場所等)とのつながりを大切にする交流支援を行っています。本人の想い、ご家族の想いを尊重しながら、看取りに対しても真摯に取り組んでいます。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>久留米市総合スポーツセンターや鳥類センターに隣接する住宅地の中にあり、周囲には花や緑が多く、また、敷地内にも薔薇の花が数多く育てられ、季節感を楽しむことができる環境である。馴染みの関係性やこれまでの暮らしの継続を大切に捉え、家族との連携も活かしながら個別の支援が行われている。また、「食」の充実も重視しており、栄養士や調理師の配置、食材や調理法の工夫等が確認できる。東日本大震災や昨年の水害を機に、防災について再検討を行い、設備の充実や地域一体となった防災意識の向上に向けて、運営推進会議等を活用しながら取り組んでいる。地域や行政、隣接事業所との連携を図りながら、広く福祉を捉え、つながりのある支援が行なわれている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の打ち合わせの中で、スタッフ間で理念を再確認し合って、常に理念を意識したケアを実践している。	理念を掲示している。新人研修で理念について最初に学んでいる。折にふれ、管理者より理念について話をしており、再確認しながら「生活の質の向上」を念頭に置き、理念に基づいたケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の一員として清掃活動に参加したり、地域行事に対し施設を開放したりして、地域交流に努めている。	自治会に加入している。地域の清掃活動は、入居者とともに参加している。地域の祭の際には、子供神輿の休憩所として、また子供会の会議開催場所として事業所を提供している。餅つき大会には、家族や近隣住民、子供たちが多数参加して、交流を深める機会となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員等を通じて、地域の介護相談窓口としての機能を告知することで、地域貢献に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催して、事業所の運営状況について報告を行い、また、参加者との積極的な意見交換を行うことで、サービス向上に活かしている。	家族全員に、前回の報告も兼ね、運営推進会議の案内状を出している。家族(4~5名)、自治会長、民生委員、子供会代表、久留米市担当者、地域包括支援センター職員等の出席を得て開催されており、事業報告や意見交換、地域情報の収集の機会として活用している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護福祉サービス事業者協議会等での活動を通じて、市担当者との意見交換を行い、協力関係の構築に取り組んでいる。	運営推進会議には、市町村担当者、及び地域包括支援センター職員の参加を得ている。久留米市介護福祉サービス事業者協議会での活動や、困難事例への対応について協議を行う等、日頃から協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等を通じて、職員全員が身体拘束について十分に理解しており、身体拘束は一切行っていない。	身体拘束については、内外の研修機会の確保に努め、禁止の対象となる具体的な行為について、あらためて確認する機会を持っている。玄関の施錠は行なわれていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等を通じて、職員全員が虐待防止について十分に理解するように努めている。また、日頃から職員が入居者の会話や体調に注意を払い、些細な変化にも互いに報告し合うことで、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全員が成年後見制度についての研修等へ積極的に参加できるよう支援している。	権利擁護に関する制度については、新人研修の中に位置付け、また、事業者協議会としても研修を行っている。経済的虐待についても基本的な理解を深めながら、必要時には関係機関との連携を図っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時に、施設方針・料金体系等について十分な説明を行い、利用者や家族等の不安や疑問の解消に努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時等の機会を捉えて、家族と積極的な意見交換を行い、寄せられた意見に対して、迅速に協議して対応するよう努めている。	全家族へ運営推進会議の案内を行い、議題の明示や前回の報告を行なっている。日常の来訪時や行事参加の機会を捉えて、意見や要望を収集し、運営への繁栄に努めている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員全員が参加する全体会議を開催している。また、必要に応じて、随時意見交換を行う機会を設けて、職員の意見等を運営に反映させている。	全体会議や各フロアのミーティングを実施し、職員意見の収集や検討の機会を設け、運営への反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の努力や実績を給与面に反映させる等、職員がやりがいをもって働けるような職場環境・条件の整備に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたって、性別や年齢等による排除は一切行っていない。本人の仕事に対する意欲や人柄を重視している。	ハローワークを通して募集を行なっている。採用にあたり、性別や年齢、国籍等による排除は行っていない。人間性を重視しており、能力を発揮してもらえる様な職場環境作りに努めている。外部研修への参加や内部研修の実施を通じて職員の資質向上を図り、資格取得に向けた配慮も行なっている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	特に入居者に対する言葉遣い・距離感に気をつけるよう日頃から指導を行っている。	内外の研修に参加し、様々な視点から、入居者の方々の人権尊重への意識を高めている。また、新聞等の事例をもとに、職員へ社会的課題を投げかける等、日常の中でも啓発に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	検討事項に関する資料を施設内で回覧したり、随時の内部研修会の開催及び外部研修会への積極的参加支援によって、職員一人ひとりの能力アップを図っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護福祉サービス事業者協議会に所属し、交流会への参加、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や無料体験を利用頂くことによって、本人の生の声を聞く機会をできるだけ設け、入所初期の本人の安心確保に努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や無料体験を利用頂くことによって、ご家族等の生の声を聞く機会をできるだけ設け、入所初期の家族等の安心確保に努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最初の相談時に、グループホームの特徴を十分に説明した上で当施設のサービス利用を検討して頂いている。本人やご家族の状況によっては、他の介護サービスの紹介も行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができることはできるだけご自分で行って頂くことを基本とし、本人が得意なものについては職員が指導を受けるといった、双方向の関係構築に努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	センター方式のシート等を用い、これまでご家族がどのような想いで本人の介護を行ってきたのかを職員が十分に理解し、その想いを受け継ぐ気持ちで介護を行うように心掛けています。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙のやりとり・外出支援等を通じて、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	家族の協力を得ながら、馴染みの商店や食堂、美容室の利用、お墓参り等に出かけている。また、手紙のやりとりを支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者同士の関係を十分に理解して、リビングの座席等を随時変更している。必要に応じて、職員が間に入って利用者同士が信頼関係を構築できるような環境整備に努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、運営推進会議や施設行事への参加等を呼びかけて、相談を受けたり、ご自身の介護体験や想いについてお話を頂いたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に本人本位の支援を行うように努めている。	センター方式を活用して、情報収集を行っている。また、日頃の会話から思いを引き出したり、その方の様子、仕草などから、個々の思いをくみ取る様に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	機会を捉えて、本人や家族からの情報収集を密に行い、一人ひとりの利用者のこれまでの生活歴等の把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人との何気ない会話や普段の生活状況の観察、こまめなバイタルチェック等により、一人ひとりの利用者の現在の状態の把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族等の想いを基に、看護・介護職員がそれぞれの立場から意見を出し合い、本人本位の介護計画を作成するよう心掛けている。	事前に家族から聴き取りを行い、本人、介護・看護職員等が参加して、担当者会議を開催している。定期的に、モニタリングの総括を行い、現状の確認と見直しについて検討を行っている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌・経過記録・申し送りノートの活用及び日頃からの職員間の活発なコミュニケーションを通じて、職員が情報を共有し、介護計画等の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設する小規模多機能型ホームを有効活用することによって、様々なニーズに対して柔軟に対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の清掃活動に積極的に参加したり、夏祭りの子供御輿のコースに施設を入れて頂いたりして、地域の人たちとのふれあい、地域での豊かな暮らしを送れるよう支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望を最優先に、かかりつけ医による受診支援を行っている。職員が同行しての受診だけでなく、職員のみによる受診支援も行っており、また、かかりつけ医による往診等の対応支援も行っている。	入居時に、希望するかかりつけ医について確認し、家族との連携を図りながら、受診を支援している。医師や家族との情報共有に努め、適切な医療を受けられるよう支援している。看護記録が整備されている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、利用者の些細な変化も見逃さずに職場内の看護職や訪問看護師に報告・相談し、個々の利用者がその時の状態に応じた適切な受診支援を受けられるよう努めている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携を行っている病院等と日頃から連絡を取り合って密接な関係を構築し、利用者の入院時は情報を共有しあって早期の退院支援に結びつけている。また、入院時には職員が定期的に面会することで、心のケアを図っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を踏まえた話し合いを重ね、主治医・訪問看護等との連携を図りながら、看取り支援に積極的に取り組んでいる。	入居時に、重度化した場合や終末期のあり方について、事業所としての方針を説明し、意向確認を行っている。本人、家族の意向を大切に捉え、医療関係者との連携を図りながら、看取り支援に取り組んでいる。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備えた対応マニュアル等を個々の職員に配布し、また、定期的な訓練等を行うことによって、職員全員が緊急時の臨機応変な対応力を身に付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民にも呼びかけて、年2回避難訓練を実施している。また、運営推進会議において、消防署職員による講話を聴く機会を設ける等、地域一体となった防災意識の向上を図っている。	年2回、隣接している小規模多機能型ホームとの合同にて、避難訓練を行っている。運営推進会議の中で、地域の災害対策について話し合いが行われ、災害時の連携や事業所を緊急避難場所として活用することを確認している。緊急時の電力確保のため、発電機を設置している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格を尊重し、馴れ合いによる雑な言葉遣いがなく、現場で職員同士が注意し合うよう心掛けている。	誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に留意しながら、日常やミーティングにおいて、振り返る機会を持っている。また、自己決定の場面を支援し、意思表出の場面を大切にしている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの状態に合わせて、日常生活の中で複数の選択肢を用意し、本人が自己決定できるように努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムを尊重して、一日の過ごし方を個々の希望に沿って決定して頂いている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出支援を通じて、本人が身だしなみやおしゃれへの意欲を保てるように心掛けている。また、馴染みの美容院での理容支援や訪問理容による支援を行っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士が日々の献立を作成し、時季の食材を使った楽しくなる食事提供を心掛けている。職員が一緒にテーブルで利用者と同じ食事をするようにしており、家庭で食卓を囲む雰囲気や大事にしている。	栄養士により作成された献立表を基に、厨房で調理されている。季節の食材を取り入れ、種類も豊富で、細やかな配慮が確認できる。厨房からも食事時に来て、入居者の様子を見たり、意見を聞いて食事作りの参考にしている。おやつも手作りの物が多い。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々のバイタルチェックや水分摂取量のチェック、病院での検査結果等を踏まえて、一人ひとりの栄養バランスの確保、水分摂取量の調整を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科医の指導を受けながら、個々の利用者の口腔状態に合わせた口腔ケアを実施している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用して、本人の排泄パターンの把握に努め、適切なトイレ誘導による自立的な排泄支援を行っている。	排泄チェック表で確認し、排泄パターンを把握する様になっている。、その方に合わせ、定期的に声掛けをしてトイレに誘導している。おむつを使用している方も、定期的にトイレに誘導しトイレでの排泄を支援している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い野菜をふんだんに使用した食事提供を心掛けている。また、個々の利用者の排泄リズムを把握する事によって、便秘に対する早期対応に努めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調等を考慮して、本人の希望に沿った入浴支援を心掛けている。	基本的な週3回の入浴スケジュールは設定しているが、個々の希望や体調、状況にあわせて、柔軟な対応を行なっている。シャワー浴も含め、希望があれば毎日の入浴にも対応している。個浴でゆっくり入浴していただける様支援を行っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間や消灯時間の定めはなく、本人の生活リズムに沿った昼寝やうたた寝も必要な時間として支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局との連携の下、服薬管理を行っている。また、一人ひとりの薬情書をファイリングして職員全員が閲覧できるようにしており、服薬による症状の変化等に適確に対応できるよう努めている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人が充実した日々を過ごせるように、施設内での作業への参加、趣味の機会確保等の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者一人ひとりの日々の希望等に合わせ、買い物や外出支援を行っている。	重度化へと移行している中で、日々の散歩等は難しくなっているが、家族とも協力しながら、馴染みの商店やショッピングモールでの買い物、馴染みの飲食店での食事、お墓参り等、個別の支援に努めている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理は、原則として、家族又は施設が行っている。一定の金額を月のお小遣いとして、本人の希望に沿ったお買い物ができるよう支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人・家族の意向を確認しつつ、電話や郵便物の取次ぎを行っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間における過剰な装飾等は避け、玄関に季節の草花等を飾ったりして、利用者が心地よく過ごせる空間作りを心掛けている。	普通の家庭的な生活空間として、過度な装飾は行わず、季節の草花等を飾り、落ち着いた空間作りが行なわれている。ソファの設置や畳スペースは、くつろぎの場所として活用され、公園が隣接していることや敷地内にも花が育てられており、潤いある生活環境となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	併設する小規模多機能型ホームへ気の合った利用者同士をお連れして、喫茶店や映画館に出かけたような雰囲気作りを行っている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	他の利用者の迷惑にならない限り、本人や家族の意向に合わせて、それぞれの居室に使い慣れた家具等を自由に持ち込んで頂き、本人が居心地よく過ごせるよう配慮している。	居室は、希望や生活習慣、身体状況を鑑み、フローリングに畳を敷く等、個別の対応を行なっている。クローゼットが設置されており、動線を確保しながら、馴染みの家具等が持ち込まれている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、できるだけ障害物のないように配慮しており、一人ひとりが安全かつ自立した生活ができるように工夫している。		